金沢市教育センターだより

第133号

此花会館内　金沢市教育相談センター　完成予想図　　平成11年３月８日発行

大きな節目の年

所長　北川彬人

本年度は、

◆児童生徒の教育相談とそのことに関連した研修・研究を総合的に進め、児童生徒のより良き成長を教職員や保護者、地域の人々との連携のもとに具現化する。

◆児童生徒の情報活用能力の育成、研究を進めるとともに、情報ライブラリーとして視聴覚教材の開発・制作・供給を充実する。

という二つの運営方針のもとに、事業の推進に努めてきました。

一年を振り返ってみると、相談部門では、「家庭訪問相談」事業が新しくスタートしました。現在までに２１件受理し、専任の相談員２名が家庭を個別に訪問しながら児童生徒や保護者との面談や学校コンサルテーションを行っています。引きこもりがちな児童生徒のなかには、登校を開始したり、「そだち」に通室したりできるようになりました。

よせられる相談はじつに様々です。学校や家庭との連携はもちろんですが、福祉・保健・保育・医療など関係機関との連携を図りながら社会全体で「子育て」を支援していく必要を感じています。

相談部門では、新規コンピュータ導入校への出前研修、理・音・美・図４教科の実技研修を実施し、どんな教科でも授業のなかでコンピューターが活用出来るよう支援してきました。さらに、コンピューター活用研修では、小学校国・算・社の３教科で新教育課程の「総合的学習の時間」におけるコンピューター活用の在り方について、開発的な授業実践が報告されました。今後のセンターの研修・研究や学校支援の方向を明らかにする研修会でした。

しかし、教育メディア利用をめぐるめまぐるしい動きのなかで、視聴覚センターが果たすべき役割について、検討しなければならない課題が多く残っています。

さて、今年度は、教育センターにとって大きな「節目」の年となりました。教育相談業務が旧此花小学校敷地内に移されることによって、昭和５６年に設置された「金沢教育センター」は、「金沢市教育研究センター」と「金沢市教育相談センター」に機構改革されました。そして、平成１１年度からそれぞれ新たなスタートを切ることになりました。

２１世紀に向けて教育改革が着々と進められています。新しい教育へのうねりのなかで新センターに課せられる役割の重大さを痛感しています。

学校のホームページを作ろう！

今，日本中の学校でインターネットの活用が情報収集の手段の１つとして注目を集めています。さらに，ホームページを作成して，学校や子供たちの活動の様子を地域や世界に向かって情報発信することも精力的に取り組まれています。

皆さんの学校でも，ホームページを作成して情報発信してみませんか！

ホームページは，学校行事の写真，生徒の描いた絵や作文等，学校にある素材を活用すれば，思ったより簡単にワープロ感覚で作成できます。

以下のようなことがよいホームページを作成するポイントです！

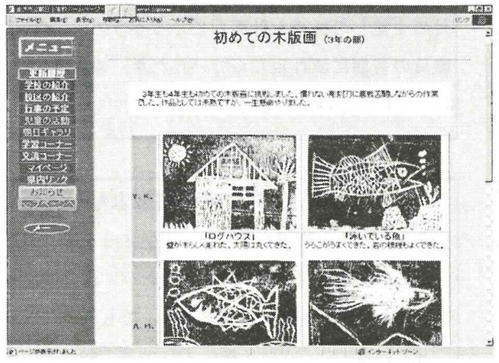
☆トップページは学校の顔！　タイトル・写真等で特色を出そう

☆誰に向かって情報発信するのかをはっきり！　子ども？　保護者？　交流校？

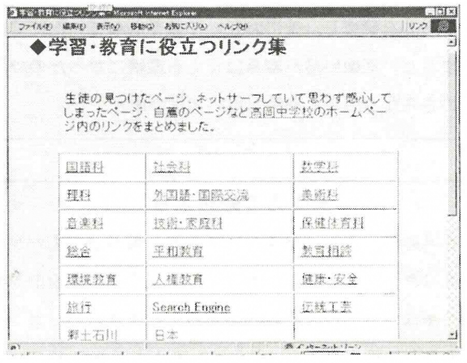
☆子どもや教師が学習情報をすばやく見つけられるように！

学習用のリンク集や子ども用検索ページ等を活用しよう

☆新しい情報をのせよう！　簡単な構成にして素早く更新しよう



朝日小学校ホームページ（児童の作品）



高岡中学校ホームページ（リンク集）

ホームページを作る際には，以下のように著作権や個人情報等に気を配る必要があるといわれています。

・子どもの写真・作品を載せる際には，学校内で十分に検討しましょう。
・子どもの名前が特定されないようにしましょう。
・イラスト，音楽等，第三者に著作権のあるものは無断で使ってはいけません。
・リンクをはる際には，メール等で相手に了解を得ましょう。

発行者　金沢市教育センター
北川彬人
〒920-0855　金沢市武蔵町14番31号
TEL（221）7949・1642 FAX（221）6800
URL http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/ed-center/
e-mail ed-center@city.kanazawa.ishikawa.jp

※ この冊子は再生紙を使用しています。

子どもの自己意識について

最近、「自己」を見つめる視点が重視されるようになったのか、それに関連した書籍が目につくようになりました。その中の一冊に次のようなエピソードが紹介されています。「いつも口うるさく言うのは、全部、あなたのためよ」と叱る母親と離れ、子供が父親と二人で旅に出ます。その旅行で子供が「お父さん、嘘ついたことある」と尋ねると、父親は「あるよ」と答えます。その思いがけない答えを聞いたとき、子どもが明るい表情で見上げるという内容です。

このエピソードに共感する人たちが大学生の中にもかなりいるそうです。彼らは過去の自分を重ね合わせて微笑ましく感じているのかもしれません。逆にそのような体験がなかったことをうらやましく感じているのかもしれません。もし、後者の方だとすれば、エピソードを読みながら、彼らは心の中に今でも満たされないままになっているものを感じているかもしれません。

ここで少し考えてみたいことは、エピソードに出てくる母親のような対応が繰り返されると、子どもたちはどのような姿で日々の生活を送っていくかです。素直な自分の姿を見せることができず、まわりからの期待にあわせる傾向が強くなるかもしれません。そして、その期待に十分にそえないことで、自分の中にある自己意識は否定的なイメージで満たされることになるかもしれません。

実は、子どもたちがどのような自己意識をもっているかは、その子どもの人とのかかわり、あるいは生き方に大きな影響を与えます。また、この自己意識は子どもたちが自分で思い通りに作り出されるものではありません。まわりの人たちとのかかわりによって育っていくものであり、まわりからの働きかけ方によって大きく変化していきます。

子どもたちがより望ましい自己意識をもち、その子なりの充実した生き方ができるように、子どもたちとの日々のかかわりを見直す機会をもってみたらいかがでしょうか。そこから子どもたちとの新しい関係が始まるかもしれません。

（田野）

－電話相談から－

だれの問題？

電話相談で、とくに心がけておきたいことは、①だれが（問題提起者）②だれのことについて（問題対象者）③どんな内容を（問題内容）④今どのように感じて（今の感情）⑤どうしたいか、あるいはどうなりたいか（問題解決の方向）の５点に注意しながら聴くことだと思います。これを聴きのがすと援助の方向がわからなくなります。

たとえば、子供の非行で悩む親からの相談があった場合を考えてみましょう。家や学校での様子はどうか、友人関係はどうか、いつから今のように変わったかなど、問題内容が多く語られます。そこで困惑した親に同情を抱くと、問題対象者の子どもをどうしたら良い方向にもっていけるかと対応策を考え、助言を与えがちです。相談者がそれを受け容れてくれれば良い援助ができたと思うし、受け容れてくれなければより強く説得して、相談員が一方的にしゃべるという困った相談関係になることもあります。こうなっては、相談者は相談員から離れてしまいます。

注意したいのは、「だれの問題か」ということです。この悩みを語っているのは親で、親が問題提起者です。援助すべき人はこの親です。どのように援助すべきかは、この親が今の状況をどう感じ、当面どうなることを望んでいるか、これを理解しようとすることで見えてくると思います。

相談員の勝手な解釈を押しつけたり、親の失敗を指摘し非難したり、子供にはこうすべきだと一方的に指示するような援助では、せっかく相談した人はどう感じるでしょうか。相談者自身が気づき、こうやってみようかと自分の責任において決めること（自己決定）ができたなら、一歩成長したといえるでしょう。

「だれの問題か」に始まる５つの観点は、電話相談にかぎらず重要です。教師が生徒を呼んで行う「呼び出し相談」などは、問題提起者はだれで、問題対象者はだれか、だれがだれにどうなってほしいと思っているのか、これをしっかり把握して相談にのぞむことが必要だと感じます。

（古市）

コンピュータ出張研修会を終えて

出張研修会は，今年度コンピュータが新規整備・更新された小中学校を対象にセンターが企画したものです。先生方に新しいコンピュータ室の学習環境を知っていただき，児童生徒とともに積極的にコンピュータ室を利用していただけることを願っています。

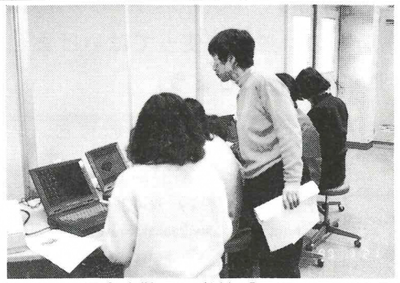
鞍月小学校「周辺機器の活用」

「周辺機器の活用」はもっとも要望の多かった研修会です。周辺機器とはコンピュータの周りに設置された機材（スキャナやデジタルカメラ等）をさします。デジタルカメラをすでに購入している学校も多くあり，授業での活用も進んでいます。先生方の関心も高い機器の一つです。

鞍月小学校ではデジタルカメラやスキャナで取り込んだ写真を画像処理ソフトで加工したり，加工した画像をワープロソフトに貼り付け，文章を添えてカラー印刷することをしました。研修時間は１時間半と短いので，あらかじめデジタルカメラグループとスキャナーグループに分かれていただき，どちらか一方を研修し，後にお互いで教えあっていただくことにしました。画像処理が容易に行える環境になったので，授業でのさらなる活用に期待したいと思います。

先生方の感想より

・デジカメの楽しさを充分味わいました。鞍月小でもパソコンのカリキュラム，英語活動のカリキュラム，総合的学習のカリキュラムの作成に取りかかっています。パソコンが子どもたちに役立つようになればと考えております。
・ぜひデジタルカメラから写真を取り込んで学級通信に使いたいと思いました。
・スキャナが使えるようになれば便利だなあと思います。練習して写真などを取り入れたいと思います。



写真：金沢市立鞍月小学校「周辺機器の活用」

大徳中学校「電子メール」

「インターネット」や「電子メール」は「周辺機器の活用」に次ぐ要望の多い研修会です。昨年末金沢市内小中学校がすべてインターネット接続され，インターネットによる情報収集，電子メールによる交流が各校で行えるようになりました。このように環境が整ったこともありますので，是非積極的に活用していただきたいと考えております。

大徳中学校では「EudoraPro」というメールソフトを使い，メールを送ったり，受け取ったメールの返信をしたり，といったメールの基礎を行いました。大徳中学校では，すでに授業の中で生徒間のメール交換を練習し，来年度は海外の生徒との交流を計画しているそうです。今回はまず教職員の皆様に慣れ親しんでいただき，来年度の交流の弾みにしていただけたらと思います。

先生方の感想より

・分かりやすい講習会でした。電子メールについては，以前から何度か説明を聞いていましたが，自分で使っていないせいかなかなか覚えられません。でも英語の授業にも関わっているので，これを機に CL 教室で触っていきたいと思います。
・最近パソコンを購入したこともあり，とても勉強になり有意義な時間を過ごすことができました。もっともっと学習を深め，自分の教科の中でも活用していきたいと思います。
・一昨年コンピュータを購入と同時にメールアドレスを作ったのですが，一度もメールを使用しないままにここまで来ました。これを機会に家へ帰って使ってみようと思います。こんな便利なものを使わないのは宝のもちぐされですからね。いい機会を与えてくださってありがとうございました。